

第 20 回図書館総合展フォーラム  
〈アクティブラーニング最前線〉  
ラーニングcommonsとアクティブラーニング、そしてその次へ  
—図書館・コミュニティから始める学びのリデザイン—  
(2018-11-01)

イマキク (imakiku.com) による投稿結果

【問いかけ】

講演についてご意見、ご質問をお寄せください(特定の登壇者に対するご意見、ご感想の場合は、冒頭にお名前を記すなど、その旨がわかるようにしてください)。「ラーニングcommons」「アクティブラーニング」をめぐる、現在・今後の(大学)図書館のあり方に関するご意見もぜひお聞かせください。

【コメント(投稿順)】

大学生の図書館利用率は現状何%ぐらいですか？

図書館が最先端に突っ走っても、肝心の教育内容とかけ離れていると、あまり活用されません…

様々なタイプのラーニングcommonsがあると思いますが、これまで見たなかでユニークな取り組み事例があればご教示頂きたいです。

大学図書館もそうですが小中学図書館への取り組みも重要

ラーニングcommonsを主体的に活用できる学生を育成するため、小学校・中学校の図書館では、子どもたちにどのような体験をさせるべきでしょうか。

ポジションの確立の重要性をおっしゃっていましたが、海外では、いわゆる通常の図書館員の仕事(貸出や配架や諸々の作業)というものは、専門の方はされていないのでしょうか？

図書館委員のキャリアアップのため、講習などを大学で扱って欲しい。

そもそも「学びの目的」は何か、ということを議論する必要があるのではないか。テクノロジーの利用はあくまでもそれに資する手段という位置付けだと思う。

『器』と『人』が整備されれば全て解決する訳ではない。

学生はラーニングコモンズとしての図書館に理解があり、柔軟に対応していますが、学生がグループ学習をしていて「今どきの学生は…」と年配の教員が苦情が入ったことが何回かあります。グループスペースと自習スペースを分けていてもワンフロアで狭いとある程度声が響いてしまいます

海外視察では図書館学以外の博士号を取得してから図書館学の資格を取るケースが多かったのですが、国内の司書はどのような学び直し方が有効でしょうか。

ラーニングコモンズを設置した当初と違う使い方（学生のたまり場になってしまい、利用したい人が利用しづらい等）に傾いてきてしまったらどう学生にアプローチしますか

主体的に勉強する学生はほっといても図書館を使いつつ自学自習をしている。一方一度も図書館を使わなくても卒業している学生がいる。その上で、図書館以外にもコモンズ空間ができて、より図書館へ行く理由が減っている。それが大学として問題と言えるか？

大学図書館員が授業をサポートすることから始める。授業計画に図書館員が組み込まれる。

海外では、新しい学びは、大学図書館だけでなく、公共の図書館でも実現されているのでしょうか？

FD との共同が成功されている大学がありましたら、ご紹介いただけますでしょうか。

小学校では、とにかく好きな事を図書館で掘り下げ、広げ、見つける。

ワクワクするラーニングをサポートしたい。

みんなを巻き込んでワクワクする時間を作りたい。

レファレンスの片手間では済まないとのことですが、職員数が少なく、専任にすることは難しいです

大学だけではなく学校でも複合施設など学校と公共図書館が一体化した施設が昨今増えてきていますが、大学と学校複合施設の図書館空間に求められるものは同じでしょうか？

アクティブラーニングスペースを学外者が活用している、または学外者と協働していると事例はありますか？

野末先生を講師として AL の研修を行った際、学生に発問して手を上げさせるのアクティブラーニングだとおっしゃったことが印象に残ってます。

世界の眼を見張る（セクシーな）テクノロジーの到達点が学習（研究）の成果にコミットしている事例を（お金を使うことができ見て回ることが出来た方から）次々に披露いただきたいです。??一つ（プラネタリウム）はもう紹介くださいました。二つ目は？三つ目は？（特にどういう成果を生んだのかにも触れてくださりながら）

学生総数 380 人程度の小規模大学で予算も人員もない。その中で何ができるのか、何をすべきかを考えています。

大学以前に小中学校での具現化の方が遥かに重要では？

場にいる人の重要性を感じています。学生の力を活用したくアシスタントに学生アルバイトを雇用したいですが、四年間で入れ替わりがあり、質の保証の難しさを感じます。

誰のため。学生の将来のため。

その学生が生きていくのはどんな世界？

やること明らかでは？

職員教員のやる気の源泉はどこ、学生の成長と幸せでは。

図書館員の多くは紙の資料整理に時間をとられている。その上私立大学図書館の多くの職員は人事異動でたまたま図書館に来ているだけの人も多い。教員主導で動かしてもらわないと現場が動かない。よって、教員の意識をどう変えるかが大切ではないか？

(野末さん、岡部さん含め5人それぞれにお答えいただければ幸いです)

ラーニングコモンズ的なものが、大学(大学での教育)から高校、中学、小学校(初等中等教育)へという流れがあります。文科省もそれを意図しているように思いますし、実際に作られている学校もあります。

運営体制、規模・予算、図書館員・司書の立ち位置や待遇の違いあるいは利用者の年齢の違い、学ぶ対象の違いなどを踏まえ、大学図書館関係者、大学でのラーニングコモンズに関わってきた当事者から、そうした動きはどのように見えていますか。

また、小・中・高で、これからラーニングコモンズの設置、運営といった取組みをすすめるにあたって、助言、留意すべき点、あるいは伝えたいことがあればお聞かせいただけますか。

先生方の意識を変えるのは、具体的にどうするのがいいですか、何か手っ取り早い方法はありますか。

アクティブラーニングは反転授業とセットであることが望ましい。

大学図書館関係者の視点や目的が、いまだに大学図書館に限られている印象を受けます(変わってきているとも思いますが)。

図書館情報学の教育から、組織や人事まで論点は幅広いと思われますが、大きな文脈で思考できるよう、この場に來られている方々から変容を広げていただきたいです。

大学図書館でいま必要とされてる人材は、司書とか、図書館員というような呼び名の人ではムリ。

行政の理解も必要

ティーチングやラーニングのサポートができる専門性を持った職員を図書館員から確保することは一つの経路として重要と思うが、一方で URA や研究者など他のキャリアの持ち主から採用することも可能ではないか。そういった役割を担うポジションとその採用ルートの制度設計を現行の図書館の制度設計とどのようにすり合わせていくと

よいのだろうか。

大学で学生を見ている方の立場から、小中学校図書館で、子どもたちにどのような経験をさせてほしいと思いますか？

大学の教育資源を活用するには、大学入学以前の教育段階も大切ではないでしょうか。

図書館の外にアクティブラーニングスペースがある場合に、図書館員がそこに積極的に関わり、協同するためのアイデアはありますか？

ゼミなどの授業を一コマ頂いて図書館で館員と共にやることで、教員の意識が変わるのではないか。さらに進んで半期2単位の図書館活用法を教員と共に進めている私大がある。これによって学内における図書館に見方が変わっている。

学びの場として活用する学生もいれば、ラウンジと区別できず？ダべったり笑ったりと賑やかな学生もいます。注意してもあまり効果ありません。そういう学生が図書館に入ってくるようになったと、ポジティブに理解していますが（学習している他の学生の姿から学べる）

やはりうるさいと苦情をいう教員がいます。

結局はその地域が教育に対して理解があったら専門職を用意してその地域の小中学校図書/学習が豊かになりますが、そうでない場合はそもそも図書の認識が幼年時から低くなってしまっているのでは

ここまでの話で、一番大事な「学生」が抜け落ちている。

司書は全員委託の非正規で学内の会議には参加できない。直接雇用でも5年で切られるケースがあり、人が定着しない。司書がスキルを身に付ける以前の問題がある。

岡部先生、進行が上手で理解が進みました

一人で自主的に静かにも大事だが

アクティブラーニングを活性化するには

大学図書館員だけでは、向上していかない。大学の先生、職員全体を巻き込んだ教育カリキュラムとして取り組んでほしいのだが、予算人員が足りない、

先生のやる気がない。

先生を説得させるだけの、海外と違って日本の図書館司書は、意識や専門性が低い。立場が弱いのが問題。

(以上)